

「業務用米の生育状況と今後の管理」

1 つきあかり、ゆきん子舞、あきだわらの生育状況

- 業務用米等実証ほの生育調査では、初期生育が順調で茎数は3品種ともに前年より多く、県指標値並を確保しています。
- 葉色は3品種ともに38以上を維持し、前年並からやや濃い葉色で推移しています。
- 各品種ともに目標生育量が確保され、今後の適正な管理により多収穫が期待されます。

※ R元平均、H30平均は、普及指導センターが調査するモデル経営体と新品種・新技術実証ほの平均値です。

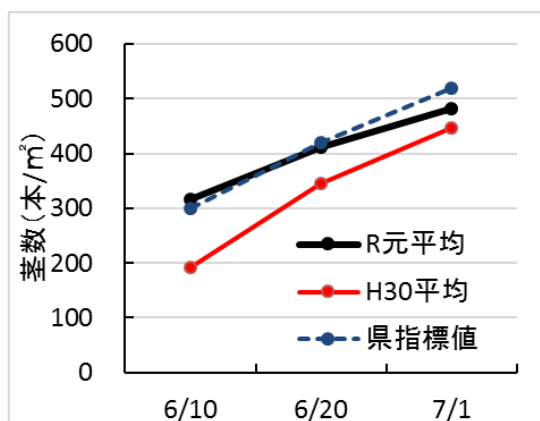


図1 つきあかりの茎数の推移

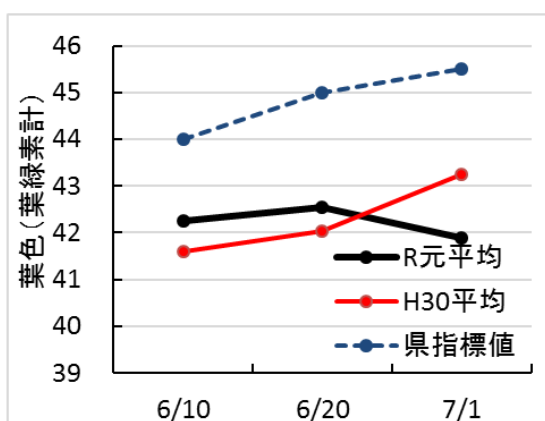


図2 つきあかりの葉色の推移

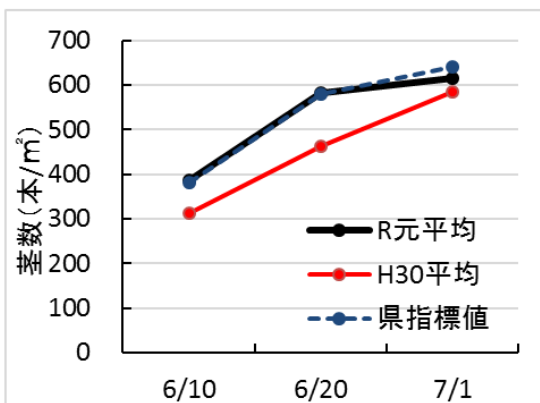


図3 ゆきん子舞の茎数の推移

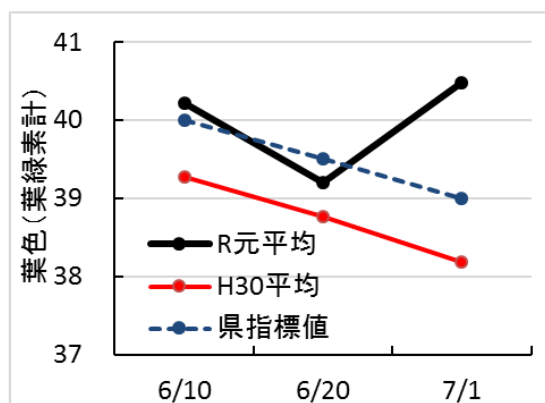


図4 ゆきん子舞の葉色の推移

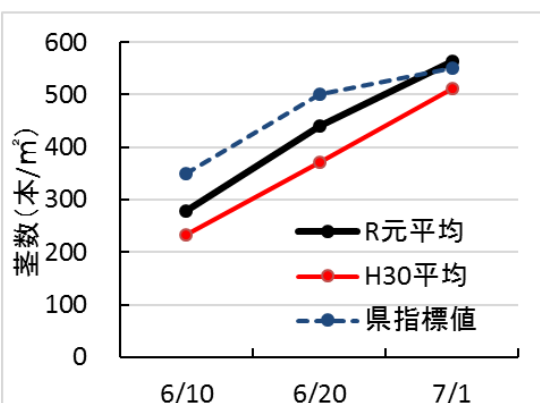


図5 あきだわらの茎数の推移

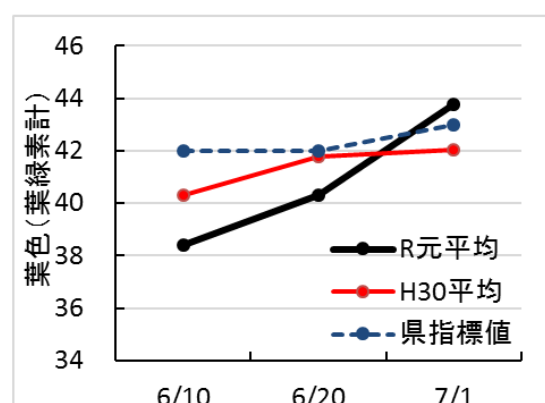


図6 あきだわらの葉色の推移

2 今後の栽培管理のポイント

(1) 適正な穂肥量の施用

- 分施の場合は、穂肥2回目は2～3kgです。地力を踏まえた量を施用しましょう。
- 全量基肥施肥のほ場は、出穂期の葉色値が指標を下回ると予想される場合、出穂期までに葉色を維持する程度の追肥を行いましょう。

表 2回目施肥のめやす

施肥体系	基肥窒素 施用量 (kg/10a)	穂肥2回目(窒素)	
		施用時期 (出穂前日数)	施用量 (kg/10a)
分施	7.0	14日	2～3
全量基肥施肥	13.0	必要に応じて追肥	

(2) 病虫害防除の徹底

- 多収穫栽培は窒素施肥量が多いため、いもち病や紋枯病が多発生しやすくなります。穂いもち防除は、予防防除を行いましょう。特に「あきだわら」は、いもち病に弱いので防除を徹底しましょう。
また、前年に紋枯病の発生量が多かったほ場で、発生が確認された場合は、速やかに防除を行ってください。
- 早生品種の「ちほみのり」、「ゆきん子舞」は割れ粃が発生しやすく、カメムシ類による斑点米の被害を受けやすい品種です。出穂期が共同防除より10日以上早い場合は、事前の追加防除を行ってください。

(3) 登熟を高める水管理の実施

- 多収性品種は粃数が多いため、多収穫のためには十分に登熟させることが必要です。出穂期25日後までは、飽水管理を継続しましょう。特に「つきあかり」は、腹白がでやすいため、早期落水をしないように注意してください。
晩生の「あきだわら」、「あきあかね」は通水最終日に十分かん水しましょう。



7月10日現在の「つきあかり：上越市」（左）、「ゆきんこ舞：長岡市」（右）

3 おわりに

これから夏本番を迎えます。体調に気を付けながら目標収量確保に向け、多収穫栽培に取り組んでください。

【経営普及課 農業革新支援担当 高橋 正弘】